

# 平成 30 年度遠軽町まちづくり会議 全体会議概要報告書

---

日時 平成 30 年 12 月 17 日（月）18 時 30 分～21 時 00 分

場所 遠軽町福祉センター4 階 1 号青少年会議室

## 【第 1 部 まちづくりワールドカフェ】 18 : 30～19:30

**目的・概要**：4 地域のまちづくり会議委員間の意見交換と交流を目的として「ワールドカフェ」手法を取り入れた話し合いを行った。「ワールドカフェ」とは、カフェのようなくつろいだ空間でオープンな対話を通じ、自由な発想を引き出すとともに、参加者同士の関係性を築くことができる会議手法。

**実施方法**：テーマ別に 6 つのテーブルを用意し、くじ引きにより配席した。各テーブルに付く人数は 4～5 人。テーマについては、各地域まちづくり会議において話題となった以下の 6 つとした。

①子育て環境、②災害対策、③移住・定住、④観光・農林業、⑤教育・文化、⑥医療・福祉。

各テーブルで 20 分テーマについて話し合いをした後、更にくじ引きで席替えし、第 2 ラウンドとして 20 分間話し合いをした。各テーブルには町職員が配置され、テーブルホスト役と記録係を務めた。

## 【第 2 部 まちづくり会議報告会】 19 : 45～21 : 00

### 【開会】

**佐藤課長**：これから第 2 部まちづくり会議報告会を始める。ここから佐々木町長が参加し、皆様の報告をお聞きする。最初に町長から一言挨拶をさせていただく。

## 【町長あいさつ】

佐々木町長：今日は、この会議に皆さん委員になられて3年目ということで、様々なお考えをお聞きできるのを楽しみにして来た。私も昔、町の方たちに呼ばれてブレインストーミングとか、色んな意見の集約のしかたがあるが、まさにこの部屋で合併前にやったのを覚えている。その時は今の町民センターとか、イトデンさんの辺りにコミュニティマート構想とあって、中心市街地集積でショッピングセンターのようなものを作ったらどうか、色んな意見交換をした記憶がある。残念ながら、その時の意見は実現を見ていないが、FMラジオ局を作るなど色々なアイデアがあった。そういったことを当ても20代～40代ぐらいの相当若いクラスでやっていた。その中で、私自身も勉強になったし、その時に参加していたメンバーも色々な形で今でもお付き合いさせていただいている。非常に建設的な意見を述べてくれる自立した町民になられているのかなと思っている。

合併して10年間、地域審議会という形で各地域の意見を聞いてきた。これは法律で決まった審議会。10年で解散して良いとなっていたが、やはりこういった形で皆さんに集まってもらい、遠軽町の将来に向けて考えていただき、そこから新しいものが生み出されれば、ということでやっている。確かに夢物語みたいなものもたくさん出るのかもしれない。ただ、そういったことから新しいものが生まれてくるのだと思うし、更にグレードアップしたプランを練ることができるような、例えば、財源はどこから持ってくるのか、それをやるには何を整備するかといったように。

スクラップアンドビルドというのは大切。我々、合併したのは、それが各々の地域でできていなかったというのが正直なところ。これはやはり、町長とか村長、議会議員さんはもちろん大きな責任があるが、選んでいるのは皆さんたち。その皆さんたち1人1人がより深く、嫌なことでもやっていく、ビルドアンドビルドじゃなくて、スクラップもやれるようになってもらうことが、新しい遠軽町の将来にとって重要だと思う。そういったことを皆さんで考えていただきたい。

今日は色々な報告を楽しみにしている。そして、3年間、皆様方に色々と努力していただいたことにお礼を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

佐藤課長：では、地域まちづくり会議とワールドカフェの報告をしていただく。報告の進行は中原主幹が行う。

中原主幹：10月から11月にかけて行われた4地域のまちづくり会議の結果について、御報告をいただきたい。会議の日程の早い順から発表していただく。

### 【遠軽地域まちづくり会議報告】

宮崎会長（遠軽地域まちづくり会議）：1つ目がコミュニティラジオ局の開設について。この話が出てきたのは、地域の連携を図るにはどうするか、あるいは観光振興の話が出ているところでPRを進める上では、紙での情報伝達だけでは限界があるのではないかと。やはり耳を通しての情報伝達というものが大事ではないかと、ということからラジオ局を作るという話が出た。北見とか名寄とかニセコとか色々な町で既にそういう取組をしている。遠軽町では、生田原の市街で有線放送設備もあったそうだが、そういうものを使って情報を伝えてはという指摘もあった。遠軽も市街地にそういう設備があるが、年に1回ぐらいしか使われていない。こういうことを考えると何か有効に使う方法がないか考えたかどうか。

2番目が子育て支援について。地域づくりの中心はやはり人づくりである。その人づくりの中心になるのは子どもを育てること。そのためには、それを支える地域が大事である。これも色々な地域で取り組まれている事例が発表された。まずは、安心して子育てができるように子どもを預ける施設やそれを担ってくれる保育士の方がいなければならないので、それを支える仕組みというのが大事ではないか。それに関連して街なかには空き家があるが、そういうものの活用を含めた子育て支援の取組を考えてはどうか。

次に4地域の連携について。合併してから4地域の溝は埋まっては来ているが、更に密接なつながりにするためには、何か大きなイベントを考えてはどうかということになった。最初に出たのは運動会。でも、色々話しているうちになかなか難しいのかなということになった。それぞれの団体などで4地域含めた取組はやっている。私も健康づくり推進委員会というのがあって、4地区から集まってレクリエーションをやっている。

次に観光について。遠軽町には様々な産業とか行事とか色々な面での素晴らしい取組がある。しかし、これが観光に十分生かされていないということだったので、その取組を考えてはどうか。

### 【白滝地域まちづくり会議報告】

矢木会長（白滝地域まちづくり会議）：白滝駅の展示の改善については、地域の方からそういう意見が出て、駅の中のペンキ塗りとか顔出しパネルの作製などしてはどうかということだった。やれる、やれないは別にしてこういうものを地域では出していくべき。

買物対策について、白滝地域に商店がない。行政がしっかりバックアップしないとできない。それと地域の方たちがどう考えているか。町長も色々動いてもらっている。実現するかはわからないが、地域の方たちがどう思っているかで変わると思う。

次に遠軽高校の通学者の助成について。遠軽高校は、他町から20人くらい受け入れてやっているということだが、白滝などから通う生徒にも交通費の一部助成があれば、もうちょっと遠軽高校に通うのではないかという話が出た。JR問題についても、遠軽高校に通う生徒への助成によって日常的な利用者の増につながる。

河川の災害でいろいろと町にやってもらっているが、会議で出たのは、農家とか林業とかへのケア。この町は1次産業が重要。枝払いとか、側溝が崩れたら少しでも直してもらおうとか、町が見回りをしてきちんとケアをしてほしい。

白滝には結構な数の空き家がある。壊すとなると、お金などの事情でしたくてもできない状況が色々なところがあるので町がどこまで携わっていけるか。

加工食品センターについては、利用料も安く、地元では陶芸などで結構使われている。食材を加工し、売り物にもできる施設で、遠軽町の他地域にはない施設とのことなので、他地域にも広めて、有効活用してほしい。

## 【生田原地域まちづくり会議報告】

遠藤委員（生田原地域まちづくり会議）：東京農業大学の学生の受け入れについては、人手不足が他の分野でも深刻なのだが、農業も人手が足りない状況。良い取組なので更に発展させていけるようにしたい。また、他の分野でも労働力の確保に町の支援をお願いしたい。

空き家対策については、今日もここに来る時に「どこどこの空き家が・・・」という話が出ていた。空き家の情報をもっと整理して広く公表することによって、使えるものは有効に活用できるのではないかな。

災害対策について、防災放送設備は壊れて使えないところがあるので、防災無線として災害時の情報を伝える手段とするよう検討すべきではないか。生田原地域にあった災害時の放送設備はお金がかかってしまうということで撤去されてしまったという経緯がある。でも、人の命に関わるととても大切なことなので、お金がかかっても必要なのではないかな。9月の胆振地方での地震の際にブラックアウトが起きてしまって、皆さん困ったと思うが、もし冬場に起こっていたらと考えるととても恐ろしい。対策についてしっかり検討してほしい。

買物、JR、バスなどの維持については、昨年の白滝のまちづくり会議で出てきた話を伺ったときに、白滝の状況は本当に他人事ではないと感じた。これらがなくなると、高齢者の方々が転出せざるを得なくなってしまう。人口が減る中で維持していくには、地域の方々がみんなで守るという意識を持つことが重要。

## 【丸瀬布地域まちづくり会議報告】

管野委員（丸瀬布地域まちづくり会議）：子育て環境について、少子化でも子どもが好きなスポーツができる環境づくりをしたらいいのではないかな。遠軽は、ある程度人口があり、子どもが多いと思う。しかし、丸瀬布、白滝、生田原においては、子どもの人数も少ないので部活も限定されている。好きな部活に入ることができない。私が子どもの頃も好きなスポーツができなかった。なんとか遠軽町全体として好きな部活ができる、例えばバスで丸瀬布とか白滝とかの中学校から遠軽に連れてきて部活をして戻すというようなことをやっていただきたい。

医療費負担の軽減について、遠軽では小学生まで医療費無償と聞いた（※正しくは、通院：非課税世帯就学前まで無償、入院：非課税世帯中学生まで無償）。中学生まで引き上げることで外部からも人が入ってくるのではないか。

人手不足対策として、外からUターン、Iターン者を呼び込む対策をする。これについては、人口がどんどん減って2万人を切るような状況。遠軽町で事業をやる方に対し、事務所の提供や家賃負担の軽減をという案が出た。

介護職の確保については、「介護の仕事は力仕事で大変、賃金も安い」というイメージの改善をなんとか町ぐるみで考えられないかという意見が出た。

続いて災害対策。9月にブラックアウトで停電になった。これが冬に起きたら非常にまずい。このため、各役場、支所でストーブや段ボールベッドの備蓄をしっかりとしておいた方がいいのではないか。

ラジオなどの災害時の情報伝達手段についての検討について、ブラックアウトが起きたとき、携帯電話も一部で使うことができなかった。しかし、ラジオは聞くことができたので、ラジオで災害情報を伝達する方法はないか。これについては、行政の方では難しいということだったので、民間にラジオ局開設を依頼して何とかできないか。ちなみに、私の知り合いの網走の建設会社が1月からラジオ局を開設して災害情報を伝達するということである。

次に観光振興について。施設リニューアルの時にはインパクトのある宣伝をしたい。台風の影響で丸瀬布地域のいこいの森が水没してしまってキャンプもできなく、遊具も使えなくなっていた。今年の7月に復旧し、オープンしたが、お祭りに行ってもいつもより人が少なく見受けられた。札幌に出張でよく行くが、「もう、いこいの森オープンしたんですか？」と多くの人に言われた。知らないということは、インパクトのある宣伝をしていないということ。お金はかかるが、こういうオープンの時はCMを打つなどインパクトのある宣伝をしたらいいのではないか。続いて、各温泉のお湯を道の駅で触れるようにする。ありがたいことに各地域で温泉がある。これを活かして温泉を引っ張って町おこしができたらいい。

## 【ワールドカフェ第1テーブルの報告（テーマ：子育て環境）】

谷口委員（丸瀬布地域まちづくり会議）：地域の報告とかぶるところがあるが、子育て環境ということで議論いただいた。前半については、子どものスポーツの話とか、職場体験の話とか、共働きのサポートとかの話が出た。

子育て環境ということで、自分も子育て中だが、部活の話があった。今年の遠軽高校のPTA総会で学校側からは、遠軽高校も部活を整理する話が出てきた。教員、子どもたちの減少に伴って、今までの数ある部活を維持するのはもう困難になってきているので、遠軽高校も部活の精査が始まる。管野委員から発表があった「子どもたちがやりたいものをやらせたい」というイメージはすごく理解できるが、厳しい状況が生まれてきている。自分の子どもも、ずっと合同チームでやってきた。白滝や町をまたいで芭露の湖陵中と野球をやらせてもらった。その中で、人数の多いところに集めてやらせると成功するという考え方に立って進めると、逆に厳しいものになると感じた。多い所にまとめられると、地域の子どもたちは上手く入って行けないとか、通うという大変さも分かってもらえないままチームが進むという状況もある。お互いの苦しみをどうやったら減らせるかという合同チームによってうまく行っていたような経緯がある。決して遠軽に集めればいいわけではなく、悩みを共有できるようなチーム作りが必要。今年はこのメンバーで揃うからいいけど、来年は困るからその人たちで考えて、という世代間のギャップもある。長い目で見ると必要もある。遠軽には、いいチームがたくさんあるので、子どもたちを育てる素晴らしいチームが活発になってほしい。

学校の統廃合についてもそう。地域の特性なり、地域のものがある中で遠軽に持って来れば解決すると思われる。数の理論から言ったら解決になるが、自分も地域に育っている中で失われるものもある。学校が統廃合されるのは、最後の部分。ただ、子どもたちのスポーツ環境を整えてあげることが色んな形でできることがあるので、色んな知恵を出して子どもたちのスポーツ、子育てを頑張っていたきたい。自分たちもできることをしていきたい。

地区合同運動会も先ほども出ていたが、発想は素晴らしいと思うので、問題は色々あるかもしれないが、ぜひ、やっていただきたいと思う。

子育て全般において、遠軽町で子どもを育てたいとさせるためにどうしたらいいかということで、東川町の話が出たが、旭川から家族を引っ張ってくるためにできる色々なことをやっているが、ここは奪うところがない。

医療費の問題については、無償は未就学児までとなっていて、管内でも下から4番目ぐらいになっている。財源のことを考えると、優先順位があり、あれもこれもと全部付けていくと、出ていくことが多くなってしまう。本当に遠軽で子育てをしたいという魅力を付けるためには、どこに投資して、どこにやっていくかということについて考えなければならない。

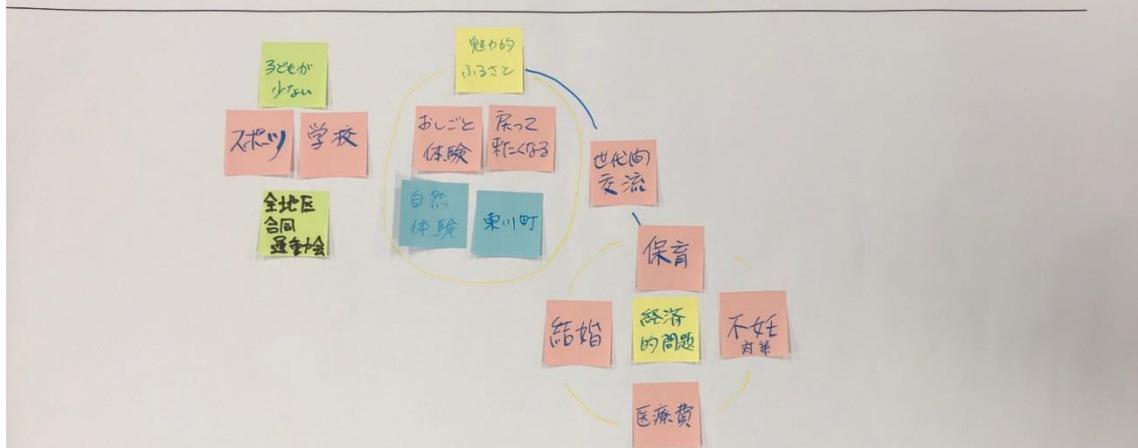
希望としては、夜間の子どもたちを見てくれる施設が少なく、子育てするにも夜間の仕事の方は預けるところがなく、困っていると、その前の不妊とか結婚とかということもあるので、どういう形か補助していただけるものはないか。

自分自身も薬剤師をやっているが、地域に戻ってくる人が少ない。資格者は札幌だとか旭川だとか帯広ですら行きたくないという薬剤師が多い。そういう人たちを無理やりこっちに連れて来られるかということそうではないが、自分たちの仕事を子どもたちに見てもらって、帰ってきて遠軽で資格者で頑張りたいという子どもたちを作っていく。体験していただくことで医療でも、農業でも、福祉でも頑張っている方が多い中、職場体験とか、そういう交流をして、「ぜひ遠軽に戻ってきて自分のスキルを発揮したい」という子どもが1人でも多くなるようなことをしていければいい。農業でも福祉でも地域にこんなに頑張っている人がいるということの中高生に伝えるものに加えて、行政的なサポートがあると、都会で学んで遠軽で花を咲かせるという形が進むのではないか。そうして色々な人が帰って来ると、人口も少しずつ増えことにもつながるので、遠軽で子育てしたいと思える町に皆さんでして行きたい。

# 1 子育て環境について

第1Rメンバー 渡部, 平野, 生出, 関

第2Rメンバー 谷口, 鈴木, 菅野, 竹之内

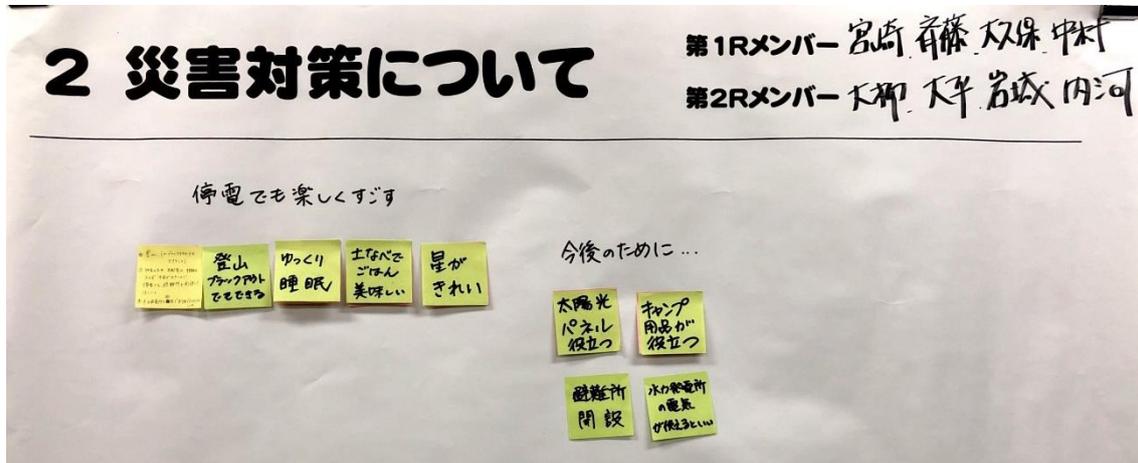


## 【ワールドカフェ第2テーブルの報告（テーマ：災害対策）】

岩城委員（白滝地域まちづくり会議）：これからの災害対策についてという堅い話ではなく、今回、胆振の地震での停電に関する話で、停電時にできたこととか、ブラックアウトでも楽しく過ごせたというような話をざっくばらんにした。その中で話題に上がったものを発表していく。早寝早起きができる、ゆっくり睡眠が取れたという話、電気が使えないので土鍋でご飯を炊いて美味しかったという話、夜、街灯が点かなかったの、星がきれいだったという話、市街地から離れて普段から星空がきれいな場所でもこの日はいつもよりきれいだったということで、何百キロ圏内という中で灯りが無いということでも星がきれいになるという話もあった。アウトドアが好きでキャンプ用品をいっぱい持っていた人は、ブラックアウトの時にすごく役立ったという話があった。太陽光パネルを自分の住宅に設置している方は、売電モードを切り替えて、自家で使えるようにして近所の人が集まってきて、携帯の充電をきに近所から群がって来たという話があった。自分のところも太陽光パネルを設置しているが、切り替え方がわからなくて、まったく使うことができなかった。そのため、倉庫から発電機を持ってきて、発電機をつないだ。

ざっくばらんに楽しかったことを話し合う中でも、これからどうしたらいいかという話も出た。家族だと家に灯りが無い中でろうそくだとかランタンを灯して家族団らんで過ごしたという話が多かったが、1人暮らしのお年寄りには不安でい

つ電気がつながるか分からない中、地域ごとに避難所が開設されるといいのではないかとの話も上がった。



### 【ワールドカフェ第3テーブルの報告（テーマ：移住・定住）】

齊藤晴委員（遠軽地域まちづくり会議）：移住・定住ということ、高齢化、少子化で人口減が起きているということがベースにあるが、第1グループの方で人材不足だとか、子育てのことなども関連してくる。

空き家を利用し、子育て支援の場所として活用してはどうか。高齢者、潜在保育士に子育て支援事業に従事してもらおう。また、空き家を利用してシーズステイに活用する。夏場に空き家を使って滞在してもらおう。それには町のPRが必要だが、滞在によって経済効果が期待される。

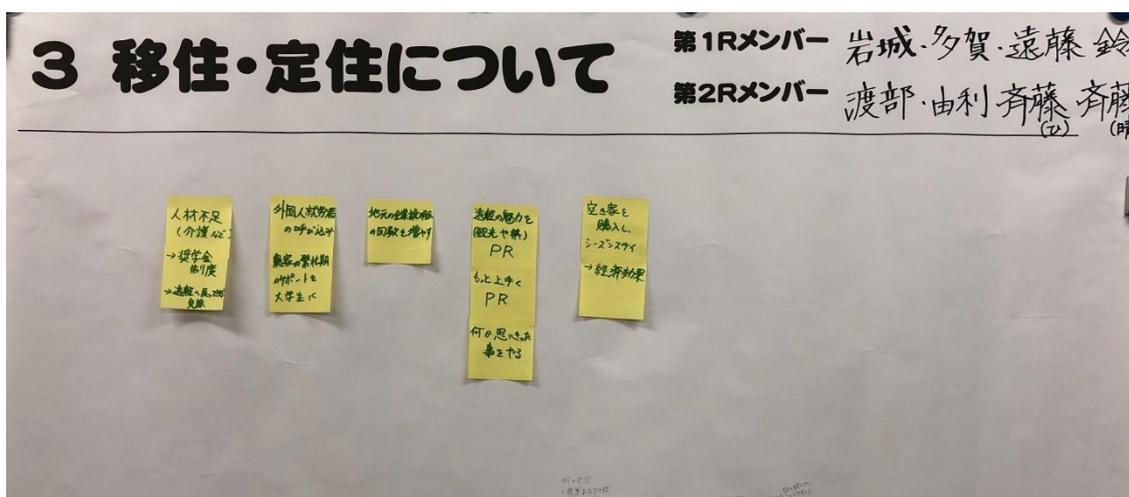
企画課や町長に提言したい1番のことが人材不足の中で介護職や保育士への奨学金制度の創設すること。現状、旭川や札幌で大学・専門学校に行っている人たちに町へ奨学金を出している。お医者さんは、遠軽で数年勤めると奨学金の返還免除がある。介護士や保育士が帰ってきて3～5年、遠軽町で仕事すると奨学金の返還免除をする制度を町長にやっていただけないかと思う。

もう一つは外国人就労者。遠軽では加工職などで何人か来ているが、これからも増えると思う。その人たちの呼び込みをどうするか。町のPRと企業のこともあるが、1次産業に対する外国人就労者を呼んで来てはどうか。東京農業大学の学生が農家の繁忙期にサポートで来てもらっているという実績もある。

地元企業の説明会の回数を増やすということで、遠軽高校生とか大学生に対する企業説明会の回数を増やして遠軽町の企業に就職してもらい、移住・定住を進めることはできないか。

遠軽の魅力、観光をPRということで、ホームページやYouTubeでドローンを使って動画を公開しているということだが、再生回数が少ないとのこと。テレビでコマーシャルはお金がかかるがよい方法ではないか。もっと上手にPRをする。何か思い切ったことをやってもらえないか。

農業のお助け隊が実施され、地域おこし協力隊2名が道の駅の人材ということである。若い人たちの定住、人材不足や子育て支援策などのPRで、一番は子育て、医療、教育が大切になってくるのではないか。ホームページの改善や町の将来のために空き家の活用した子育て施設などについて、町の支援をお願いしたい。



### 【ワールドカフェ第4テーブルの報告（テーマ：観光・農林業）】

関委員（丸瀬布地域まちづくり会議）：観光・農林業ということで、第1、第2ラウンドで出た項目を4つにまとめた。

1番目は、宿泊施設の整備ということで、各地域でイベント等あるが、宿泊施設が足りないために紋別、北見などに人が流れている。宿泊施設を増やし、町にお金を落としてもらおう。

2 番目に地域交通の充実。地域間をつなぐということで、地域間が離れているため、施設間をつなぐ方法としてバスを用意したらよいのではないかと。

3 番目にPR・情報発信の工夫ということで、各地域色んないいイベントがあるにも関わらず、PR不足のため十分に知られていない。発信に工夫をしてほしい。もともとあるものを町民に知ってもらいたい、例えばコミュニティラジオなどで発信する。

4 番目に農林業が基盤である。これからも遠軽町は農林業が基盤ではないのかということで景観も含め、大事にする。地元の木材の使用も進めたらいいのではないかと。農林業の場合は水路のケアなどをしてもらえれば、もっと良くなるのではないかと。

**4 観光・農林業について** 第1Rメンバー 山崎, 内河, 中内, 谷口, 柳田  
第2Rメンバー 宮崎, 田, 杉本, 矢木, 藤田

- ① 宿泊施設の整備.
- ② 地域交通の充実 (地域間をつなぐ)
- ③ PR・情報発信の工夫.
- ④ 農林業は基盤である.

渡部委員（生田原地域まちづくり会議）：今、水路のケアの話があったが、主にどういったことか。

矢木委員（白滝地域まちづくり会議）：林道では農機具に張り出した枝がぶつかるなどあるので、枝払いをすとか、町の水路は流末まできちんと整備すれば、決壊など畑に影響がなくなるのではないかとということ。

## 【ワールドカフェ第5テーブルの報告（テーマ：教育・文化）】

平野委員（遠軽地域まちづくり会議）：まず第1ラウンドで出た項目が4つあった。

地域全体の運動会。子どもたちを通して一つの町としての意識を高めようというもの。次に小学生・中学生のまちづくり会議の開催。次に青年活動への支援。最後に生田原地域の文学館、ちゃちゃワールド、歌句碑ロードなどの活用。という案が出ていた。

そこを第2ラウンドで話を詰めていった。4地域間の交流については、色んなところから出ていたが、我々もその話になり、小学生・中学生ぐらいからまちづくり会議をやることによって、青年活動にもつながっていくのではないかな。何かの形で交流をしながら、運動会なのか、イベントなのか、そういうものをやれないか。

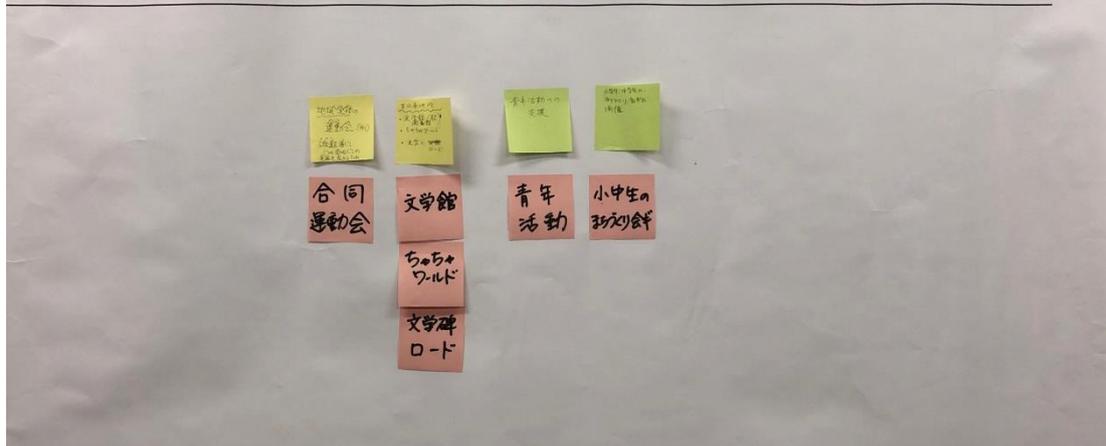
それから、各地域に木材とか、生田原の文学館もそうだが、自分も建物があるのは知っていたが、中身は知らなかった。多賀委員から教えてもらったところ、とても興味深い。文学館では、この辺の道路だとか、線路の成り立ちがわかるとのことだった。そういったものがあるということを知らなかった。実は、商工会議所の女性会で周年大会があり、全道から集まった方たちに町で作った歴史のDVDを流したところ、皆さん見入られた。自分たちも先に観て、とてもためになり感心した。せっかく、そういういいものができているにも関わらず、あるということを知らない人がたくさんいると思う。広報やホームページに載せたからそこで終わりではなくて、そこからもっと町民の人たちに知っていただかないと、せっかく作ったものが無駄になってしまうので、学校で流すとか、新しくできる仮称の文化センターでずっと流すなどすると良い。

もう一つ、交流する時のことで、今は確かに巡回バスもないとのことだが、声を上げれば、行政はバスを出してくれると聞いた。行政に任せてばかりでなく、自分たちから声を上げていくことが必要ではないか。

## 5 教育・文化について

第1Rメンバー 古利、杉本、大平、藤田

第2Rメンバー ◎平野、多賀、山崎、中村



### 【ワールドカフェ第6テーブルの報告（テーマ：医療・福祉）】

生出委員（遠軽地域まちづくり会議）：高齢者、介護、医療、子ども支援の4つについて、報告させていただく。始めに高齢者。年々増える高齢者だが、施設に入居したくても入居できない。お年寄りが安心して暮らせるような施設を増やしてほしいとの話が上がった。

続いて医療費について、こちらも年々増えるが、医療費を少しでも削減するために健康診断を増やすとか、介護予防の体操教室などをやることで改善できないか。高齢者が自動車免許を返納した後の交通体制が充実していないのではないかとのこと、これも改善してほしい。

続いて、介護について。介護の担い手がないということで、労働の条件や待遇等を改善してはどうか。日本人でいないなら、外国人を積極的に雇ってはどうか。

続いて医療。厚生病院について、町長や関係者の尽力で遠軽で出産できる環境が整いつつあるところだが、まだまだ医師が足りない。高齢者のかかりやすい眼科や整形外科などが医師不足ということで、もっと医師を増やしてほしい。それには、病院の広報だとか、周知が不足しているのではないかと。



FMラジオのことなんかもお話があったが、これも過去から議論があったもの。皆さんが挙げられた多くのものは、実は施策の中でこれまで議論になってきていて、多分9割以上はそういうもの。今まで議会とか、役場の中での職員と私がしてきた議論と同じような方向性を持っているなど今日聞いて感じた。こうした課題を解決していくということを皆さんと知恵を出して進んで行かなければいけない。正直今までやってきたこと、出来ていないものもたくさんあるが、課題は共有化されていると感じた。

その中で申し上げたいのは、一つ一つの施策の中でお聞きしたところ、なるほどと思うものもあるが、補助とか支援をしてほしいというものが多かった。これは大昔から難しいテーマ。医療費のこともあった。高校まで医療費を無償にすると、うちの町では7千5百万円かかる。7千5百万円というお金の見方を皆さんの頭に入れてほしいが、例えば、今、町民センターを建て替えるが、約35億円かかる。でも、この35億円のうち遠軽町の自腹は、ざっくり言うと25%ぐらい。この7千5百万円は全て町の自腹のお金になる。30何億とかに比べたらたいしたことないお金のように見えるかもしれないが、これはとんでもない額のお金。今まさに来年度の予算を作っている。財政課という部署で各部が出した要求を精査しているが、要求を全部聞いていると8億円ぐらいお金が足りない。これは、一つ現実のお話としてある中で、とは言えこういう問題をどう解決していくかである。

先月末で人口が2万人を切った。これはまったく予想どおりで、ちょっと遅いぐらい。合併の時に人口推計というのを出して、人口が減るとするのは日本全体でまだまだ続いていく。急に子どもが増える訳ではない。その中で、どんなこと、どんな政策に基づいて、どんな施策を打っていくかが非常に大事で、今出していた一つ一つのことは全部、やれるのであれば有効な施策だと思う。限られた財政の中で、どういった形でこういうものがやれるのかということ。最初の挨拶の中で言ったのはそういうことである。

しかしながら、皆さんはこういうアイデアをどんどん出していただきたい。私も財政をやっている時には、企画には「旅費をいくらでも付けるから、国内ならどこでも行ってくれと。その代わりにアイデアを100出せと。1当たればめっけも

んだ」ということを言っていた。本当に地域振興の施策は、100出して1当たればいいと思っている。テレビやマスコミでは、よくこの村ではこういうことやってとかやるが、ほとんどはその数年後行って、それが続いているのかと言ったら、続いていない。これが現実の世界。町の規模によっても違う。小さい所は小さいなりのことがあるが、それが2万人のところで出来るのかという問題もある。

そういう意味で皆さんが、「各地区」という言葉は合併して13年経ってもう使いたくないが、一堂に会して運動会という意見もあった。いい悪いは別にして、本当の意味での一体感を持てるためにそういった考えを持っていることは心強く感じた。

役場の中でも、ほとんどの予算は通らない。でも、やっぱりうまい職員はしっかり理論を作って通している。そこは職員の腕。こうあるべきというような議論は、私は職員に許さない。それに裏付けを持って実行できるようにさせている。100人中100人が賛成のものはまずない。いかに多くの人の支持を得られるかが重要なこと。そういった意味では、皆さんの色んな施策は、多くの人の共感を得られるアイデアが多い。じゃあ、どうやってそれをお金の面でもやっていくか、各4地区共通でやっていくかというようなことがやっぱりクリアする大きな課題なのかなと思う。災害対策でも、例えば今回のことでもある地区では水を配った。職員が昔からその地区ではやっていた。これはこれでいいと思うが、じゃあ、別な所でできるかということ、できない。これは逆差別になる。これはまさに各地域、歴史も違う、人口密度も違う、そういった中で考えて行かなきゃならないことだと思う。

もう一つ意外に感じたのが、町に権限がないことがたくさん出てくるのではないかと予想していたが、そうではなかった。割と町の中で話を聞くと、そういうことが多い。例えば、JRの問題についても出ていたが、一生懸命国も道も自治体も頑張れ、頑張れと言うが、これははっきり言って沿線自治体の問題ではない。市町村を跨っている問題を解決するために都道府県がある。そして、石北本線については、玉ねぎ列車とか、北海道の1次産業に欠かせない路線、これは北海道だけでなく本州の人も困る問題。2年前の大雨で列車が止まって値上がりし

てしまった。それでテレビや新聞がわーっと騒ぐ訳だが、国ももう少し考えなくてはならない問題。でも、皆さんからは、ほとんど町に直結する町でできる施策を出していただいていた。

こういうことを100出して1当たればいいと思って考えを出してもらいたい。また、個々で思うところがあったら、ぜひ役場に来て「これは担当誰？」と聞いてみてほしい。そうすると、もっと深く考えが出ると思う。例えばPRのことが各項目にわたって出ている。これはもう、ずっと繰り返している問題。どこの町も同じだと思う。しまくっても、しまくっても見ない人は見ない、じゃあ、どこまですればいいの？ということが正直ある。看板付けろ、看板付けろと言って看板だらけになっても分からない人はもっと付けろと言う。こういったこともお互いに理解をもっと深めていけば、もっと使えるものが出ると思うし、やっていきたいと思う。私も「情報発信が下手」と、職員にもずっと言っている。せっかくいいことやっているのに伝わっていないじゃないかということがある。そこも皆さんの話を聞いて、私たち自身もしっかりやっていきたいと思ったところ。

ぜひ今後とも、どんどんとあきらめずに考えを出していただきたい。この会議は今回で閉めることになるかと思うが、機会があれば、また参加をしていただきたいし、委員ではなくても役場に行って、聞かないで否定的なことばかり言う職員だったら、ぜひ私のところに来てほしい。

## 【閉会】

**佐藤課長**：以上で予定していた日程が終了した。委員任期が3年間ということだが、今日が最後の会議になると思う。お礼申し上げます。本会議は、更に2年間設置するので、よろしければ、再度委員をお引き受けいただきたい。今日は初めての試みだったので、そういったことも含めてご意見等あれば企画課までお知らせ願う。

平成30年度遠軽町まちづくり会議全体会議 H30.12.17出欠

生田原地域まちづくり会議

番号	氏名	所属団体等	出欠	送迎	備考
1	多賀 憲 雄	生田原地区自治会連合会	出席	利用	
2	和田 あさみ	辞任	-	-	
3	高橋 淳	えんゆう農業協同組合	欠席	-	
4	渡部 正 騎	えんがる商工会	出席	利用	
5	遠藤 麻 由	えんがる商工会女性部	出席	利用	報告者
6	由利 敏 之	遠軽町体育協会	出席	利用	
7	大柳 清 美	遠軽町文化連盟	出席	利用	
8	杉本 一 幸	えんがる町観光協会	出席	利用	
9	堀江 都	遠軽町消防団安国分団	欠席	-	
10	舟木 廣 隆	学識経験者	欠席	-	

6人

遠軽地域まちづくり会議

番号	氏名	所属団体等	出欠	送迎	備考
1	宮崎 良 公	遠軽地区自治会連合会	出席		報告者
2	竹之内 義 文	遠軽商工会議所	出席		
3	橋口 理 教	遠軽青年会議所	欠席		
4	斉藤 晴 行	公募	出席		
5	大平 芳 人	遠軽町社会福祉協議会	出席		
6	村上 武 志	えんがる町観光協会	欠席		
7	藤田 琴 絵	学識経験者	出席		2部欠席
8	平野 由美子	商工会議所女性部	出席		
9	生出 竜 也	遠軽町スポーツ協会	出席		
10	斉藤 ひとみ	遠軽信用金庫	出席		

8人

丸瀬布地域まちづくり会議

番号	氏名	所属団体等	出欠	送迎	備考
1	柳田 友 之	丸瀬布地区自治会連合会	出席	利用	
2	上野 善 博	農業委員	欠席	-	
3	鈴木 幹 雄	遠軽地区連合会	出席	-	
4	佐竹 聡 子	えんがる商工会女性部	欠席	-	
5	関 弘	スポーツ推進委員	出席	-	
6	谷口 寿 康	遠軽町社会福祉協議会	出席	利用	
7	能正 あすか	えんがる商工会女性部	欠席	-	
8	塘 秀 克	丸瀬布社会福祉協会	欠席	-	
9	管野 浩太郎	えんがる商工会青年部	出席	-	報告者
10	近藤 奈都美	ホテルマウレ山荘	欠席	-	

5人

白滝地域まちづくり会議

番号	氏名	所属団体等	出欠	送迎	備考
1	岩城 健 綱	岩城農場	出席	利用	
2	江面 陽 子	江面ファーム	欠席	-	
3	内河 智 美	TENGU CAT-SKI GUIDES	出席	利用	
4	的場 秀 太	(有)白楊舎	欠席	-	
5	大久保 真由美	大久保農場	出席	利用	
6	山崎 幸 治	(有)北海設備	出席	利用	
7	中村 祥 嗣	祥巖寺	出席	-	
8	今野 政 男	大同産業開発(株) 19	欠席	-	
9	矢木 優	(株)矢木組	出席	-	報告者
10	古寺 博	白滝地域自治会長連絡協議会	欠席	-	

6人